

令和二年度

修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

工藤 大輝 織豊政権の対九州政策における「京都御媒介」とその意義―島津氏と近衛家の交渉を中心に―

〈文化財学専攻〉

池田 亘 南九州における地下式横穴墓群の配置パターンについて

桑原 政人 宗像平野出土耳環の自然科学的調査

末光 博史 備讃瀬戸地域の古墳時代後期の土器製塩の分業について

史学・文化財学科

〈日本史・アーカイブコース〉

青山 陽美 明治憲法についての一研究―大津事件の裁判研究から読み取れること―

赤司ひかる 近世・近代における海運形態と海難に伴う漂流の諸問題について

岩本 康平 熊本城の誕生について

梅津 武 戊辰戦争における国内と仏・英の動向

榎本 純平 織田信長の人生

大田 高敬 伴天連追放令の一考察

大野 洗人 織田信長の生涯について

緒方 彩乃 イエズス会と信長

小川 航 戦後期における経済・貿易活動の方向性の検討

加藤 浩登 織田信長の生涯に迫り、その性格を考察する

川井 崇史 江戸時代の通貨から見たお金のあり方

京岡 歩夢 真田氏について

久保田耕平 幕末維新期における土佐藩の藩論について―谷干城の活動を中心に―

小林 大輝 分国法について

齊藤 光貴 三浦按針について

高木 理乃 日本刀の歴史について

立野 真咲 桶狭間の戦いについて

鶴田 刻也 江戸の食文化

友利 彩奈 自衛隊と陸軍の災害派遣

中川蕉泰朗 明智光秀と本能寺の変の背景

中村優梨花 長崎信徒発見における信仰と伝承について

野邊 祐磨 日向諸藩の幕末維新期の動向について―幕府・他藩との関係性を中心に―

早崎 雄大 村上一族と瀬戸内海周辺の大名勢力

原口 崇寛 織田信長の先行資料から見る現在の姿

比嘉 瑠美 坂本龍馬の新国家構想に関する一考察

東 美月 江戸の出版統制における恋愛的文化の取り締まり―好色本と浮世絵を中心に―

古谷 篤史 加藤清正の生涯

星野 匡平 桃山文化

堀田 晃希 武田信玄について

松永 将 日本中世の葬送儀礼について

光山 勇氣 明治六年政変の真相江藤新平や大久保利通等の維新政府の人間から見た実態

宮木 博生 立憲君主としての象徴天皇象徴

宮瀬 晴菜 幕末・維新期の和宮

天皇の成立とその運用

|       |  |       |  |       |                                 |
|-------|--|-------|--|-------|---------------------------------|
| 村門 里紗 | 天下布武の根拠地安土城  | 田中 翔大 | 欧米諸国の障害児教育及びインクルージョンについての考察と日本との比較・研究    | 朝川 千聖 | 北部・中部九州における須恵器模倣土師器の編年と分布       |
| 守屋 元輝 | 神領興行法による宇佐神宮領の動向―豊後国田染荘を事例に見る土地の所有権争い―               | 中村 彩音 | 1980年代のトルコ共和国における世俗主義と国の動向               | 荻苒 洋美 | 金属製遺物に付着した有機物の自然科学的調査           |
| 諸永 樹  | 豊臣秀吉について   | 福島聖太郎 | 現代ヴェトナムにおけるドイモイ                          | 安東愛梨香 | 博物館内の環境調査―文化財をより長く保存できる環境をめざして― |
| 山本 実沙 | 近世の白杵藩におけるキリシタン禁制について                                | 森下 凌雅 | 古代エジプトにおける王権確立期                          | 植木麻衣子 | 古代の刀剣と中世・近世の日本刀                 |
| 有光 佳奈 | イスラーム建築について  | 衛藤 聖貴 | 里山とは―持続可能な社会とは何か―                        | 木崎 晴崇 | 高射砲陣地及び被害から見る大分市内の防空圏           |
| 岩本 凜  | 文化としての喰人―バタク族を中心に―                                   | 小野 航平 | 世界の「ゆふいん」、その光と陰―それを担った人々を追う―             | 熊木 謙太 | 上円下方墳の歴史的価値について                 |
| 宇野 峻平 | 蜀漢における諸葛孔明の治績  | 柏原 僚介 | 安倍晴名と陰陽師―日本最強の陰陽師の実像と伝説―                 | 坂田 久宜 | 中国鉄剣の変遷と日本との関連性について             |
| 金子 祐也 | 北米西部開拓期における開拓者と先住民の関係性―西部開拓初期(1803年)から末期(1890年)にかけて― | 長友 花純 | 日向の水神―宮崎県に見る水の信仰―                        | 重岡 菜穂 | キリシタン墓碑の発現期から衰退期における分布と変遷に関する研究 |
| 白津 朋佳 | 「ケルズの書」の装飾に関する考察                                     | 野田 七海 | 欧米行事の日本における受容―贈答習俗としてのハロウィン・バレンタインデーの変容― | 下川 遼  | 日向・大隅古墳群―南九州の古墳群の巨大化要因について―     |
| 鈴木 達也 | 日本における魏晉南北朝経學研究史                                     | 藤田 駿平 | ロボットの魂は何処                                | 高野 愛里 | 武器形青銅器の祭祀化について―銅剣を中心に―          |
| 鈴山 太誠 | 各時代における天皇観   | 向井 浩太 | 北部九州島嶼部における墓制と墓上施設                       | 高橋 渉  | 有明海沿岸地域における朝鮮系無文土器流入のプロセス       |
| 田嶋 瑞樹 | ヨーロッパ諸国の海外進出と海賊                                      | 森本 歩佳 | 日本の鬼伝説を読む―大分県を中心に―                       |       |                                 |

樽見 敏人 太型蛤刃石斧の成立に関する一考察

戸高 莉緒 肥前・筑前地区における窯構造の比較―通焰孔と奥壁のトンバイに注目して―

中野 直樹 中世都市豊後府内町出土の古代遺物について―府内町のルーツを探る―

中森 有紀 豊前地方の横穴墓について

原口 友希 古代山城―日本と韓国の交流―

半澤 裕生 豊後府内出土の華南三彩に関する考察

福島 勇真 行橋市内における古墳と遺跡の関連性について

間瀬 凌 三角緑神獸鏡の制作地について  
松永あずみ 筑紫平野における朝鮮系無文土器集団の一類型

水之浦宗一郎 近世城郭の石垣にみる大名家  
光来出麗羅 大分県における弥生時代堅穴住居の地域性

本門 拓也 弥生中期の地域間における精神世界の変化―諸岡型貝輪と立岩型貝輪に着目して―

森中 明音 大分県内の横穴墓における副葬品配置

吉野 穂香 弥生時代の磨製石剣について  
和田山 慧 武田氏の山城と本拠地―躑躅ヶ

崎館跡・新府城と武田氏が築いた城郭―